

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2470900180
法人名	医療法人 豊和会
事業所名	グループホーム あらしま
所在地 (電話番号)	鳥羽市安楽島町字高山1075番地29 (電話) 0599-26-7200
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成19年 9月 6日(木)

## 【情報提供票より】 (19年8月12日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤13人, 非常勤3人, 常勤換算14.6人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨準耐火造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	2,450 円~
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

### (4) 利用者の概要(8月12日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1		3 名	要介護2		9 名	
要介護3		5 名	要介護4		1 名	
要介護5		0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均	79 歳	最低	67 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	豊和病院 寺本歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員全員で考えた「その人らしさを大切にしながら、明るく穏やかに過ごせるホーム」を理念に掲げ、利用者の思いを大事にし、その人らしい人生の継続の支援のためのケアがされている。職員は常に利用者の変化に気を配り、一人ひとりにゆっくり・じっくり寄り添って接している。全国でも少ないアニマルセラピー(犬4匹)によるふれあいは、利用者の表情を和らげ、空気を和ませる一環となっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題であった定期健康診断については、家族等とも相談の上実施。金銭管理については、現金出納帳を作成し管理している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者はじめ職員はサービス評価の意義及び目的をよく理解し、全員で自己評価を行った。自己評価による課題については、スタッフ全員で共有している。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議については、3月、5月、8月初めに開催しており、事業所側からの事業所の現状及び行事等報告のみに留まらず、活発な意見要望等出され、スタッフ全員で検討のうえサービスの向上に活かしている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議、家族等訪問面会時及び行事参加時に意見、苦情、要望等を聴取するとともに、サービスの向上につなげるため、全職員へ回覧、申し送り等行っている。また、外部機関に苦情等申し立てができることについても重要事項説明書に記載し説明している。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の一員として、老人会や市開催行事及び地区文化祭への見学交流のほか、民生委員の視察研修や職場福祉体験教室の受け入れを行っている。また、ボランティアとの交流を図っている。</p>

## 2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で考え決定した「その人らしさを大切にしながら、明るく穏やかに過ごせるホーム」を理念に掲げ、利用者一人ひとりの思いを大事にしながらケアに取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの特徴を活かしたグループホームの役割や課題を地域へ発信し、地域で支えるまちづくりに貢献すること等を目指した理念を、今一度検討されることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が、いつも利用者一人ひとりの思いや希望を大切にしながら利用者に接することを念頭におき、「なんでもノート」に問題点や引継ぎ事項を書きとめ、ミーティング等で共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、老人会や市開催行事、若杉町文化祭見学等交流会へ参加している。また、民生委員の視察研修、職場福祉体験教室の受け入れ及びボランティアとの交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員全員が自分の思いや考えを提示し検討している。なお、前回評価の改善事項等についても全員で検討し改善を図った。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見及び要望等については、サービスに反映させるため全職員に回覧、申し送り等を行っている。なお、運営委員会では、事業所側の報告のみに留まらず、活発な意見要望等が出されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	懸案事項等について、地域包括支援センターに相談しているが、サービスの質の向上のための取り組みに対する市の担当者への働きかけは、事業所の現状報告のみに留まっている。	○	当事業所の課題等現状を知ってもらうため、積極的に行政を巻き込み、更なるサービスの向上や地域貢献のための取り組みを検討することを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶり等定期的には年3回「あらしまだより」年2回の「豊和会だより」にて、また、健康状態等については家族等訪問時や電話にてそれぞれ報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族等訪問時に意見等聴取している。なお、ホーム玄関に意見箱を設置している。また、重要事項説明書に苦情申し立ての担当者や責任者ならびに公的機関を紹介掲載するとともに説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わる場合は、管理者が利用者きちんと紹介している。なお、自己都合による離職者はあったが、グループ事業所等への職員異動はなかった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	三重県及び県社協等主催の認知症研修等に積極的に参加している。また、事業所内研修として、職員相互が講師となる各種テーマの勉強会を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会、三重県グループホーム協会に加入し、同業者の情報等収集するとともに、他グループホーム事業所での実習、民生委員の視察研修及び職場福祉体験教室の受け入れ等同業者のみならず各種機関と交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族やそれまで関わってきた介護支援専門員等と相談しながら、馴染みながらのサービス開始をすることに努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	大工、プラモデル、畑仕事、花を育てること等職員が利用者個々の生活履歴等をしっかり把握し、実際に行ってもらうことにより、利用者から生活の技等を教えてもらったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居当初の思いのほか、日々の生活の中で希望や意向の把握に努めている。嫌なことや好きなことの希望や意向等強制にならないよう等利用者本位に配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議に本人を交え、日々の記録「なんでもノート」や家族の意見希望等を活用して介護計画を作成している。また、家族には訪問時等に説明している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回見直すとともに、見直し以前に変化があった場合は「なんでもノート」やミーティング等による情報により随時見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医等への受診のための移送等多機能性を活かした支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所当初にかかりつけ医の確認に努めており、利用者が適切な医療を受けれるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師や看護師が常駐していないため、看取りは実施していない。終末期になれば病院へという形態になっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ゆっくり、じっくり、本人を思いやった言葉かけやさりげない介助に留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行きたい所やしたい事を聞き、天気がよければ散歩や外出、食事の時間変更の希望があれば変更したり等、一人ひとりのペースを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえ、配膳、後片付け、食器洗い等一人ひとりの力を活かしながら、利用者と職員が一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の順番にこだわる人、寝る前に入りたい人、毎日シャワーを使用したい人等、一人ひとりの希望に合わせた入浴を実施している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事、ドライブ、散歩、自転車こぎ、犬とのふれあい等一人ひとりの役割や楽しみ及び気晴らし支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、畑、買い物、ドライブ、ベランダでの憩い等戸外へでかけられるよう支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関に鍵を掛けることの弊害を理解しており、平日の日中は鍵を掛けていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力による避難訓練等年2回実施している。特に夜間を想定した避難訓練を実施している。	○	近隣に民家がない等の事情はあるが、いざというときの地域の人々の協力について、検討していただくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により、利用者の状況に合わせた食事量や栄養バランスについて管理をしている。水分確保について、特に夜間は、ペットボトルによる摂取の他、食堂にも水分摂取のための準備がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダにはベンチやプランター、壁には季節感を感じる飾り、居間には季節の花や行事の写真等居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していたベッド、テレビ、仏壇、家族の写真等配置され、居心地良く過ごせるよう配慮している。		